

令和3年度 地方創生とSDG'sの推進に関する包括連携協定締結について

日時：令和3年5月7日（金）午前11時

場所：新富町役場 2階 応接室

この度は、新富町様とパナソニック株式会社様との「地方創生とSDG'sの推進」という社会的意義のある取組みに、本学の参画を要請いただき、とても有難く感謝申し上げます。

早速、パナソニック様のホームページを拝見したところ「経営理念」に、「より良い暮らしを創造し、世界中の人々のしあわせと、社会の発展、そして地球の未来に貢献しつづけることをお約束します。」とありました。さすが、地球規模の展開をされている会社の理念は崇高であります。本学はと言いますと、学問領域は大きく分けて、食料・環境・健康・教育の分野になります。これに、短大の「異文化理解」も加わると、まさに「地球の未来に貢献」し得る可能性を秘めた大学と言えます。新富町様、パナソニック様とは、必然の出会いのように感じているところであります。

さて、本連携協定の柱になるのが、「生ゴミの堆肥化」を通じた「食品ロス削減」とお聞きしております。ご承知の通り、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」いわゆる「SDG's」において、「2030年までに世界全体の一人当たりの食料の廃棄を半減させる」と決まりました。目標達成には、各地方自治体が旗を振り、産学官が連携して、問題解決のための検証を積み重ねていく必要があると思われれます。そして、それが、全国各地で展開されていくことが、「成功のカギ」と言えます。是非、本「3者連携協定」の取組みが手本となり、全国的な「食品ロス削減」の意識向上に一石を投じる役割を担っていただきたいと期待しているところです。

また、昨今のAI・ロボット技術の進化にも見られるように、社会システムも変化を強いられ、それと同時に「新たな価値を創造」していかなければなりません。次代の創造は、地方の産学官が連携し、「既成事実」をつくって社会を変えていく時代であると感じております。

幸いにも、本学は、隣町の新富町様から車で30分という、「一番近い高等教育機関」であります。パナソニック様は滋賀県とのことですが、オンライン会議が一般的な時代となり今回このような形で「オンライン調印式」を実施できるのも画期的なことだと思います。

このご縁を大切に、引き続き、新しい価値の創造と発信に取り組んで行けたらと願っております。どうぞよろしく願いいたします。

簡単ですが、ご挨拶に代えさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

南九州大学 学長 前田 隆昭